

## 5 - 3 東海地方における地震活動の変化

### On the Seismic Activity in Tokai District

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図に、1983年1月1日～1989年5月10日までの東海地方における地震活動の分布を示す(①：震央分布、②：時空間分布、③M-T図、④：地震回数積算図)。これは、同地方をA・B・Cの3領域に区分(太実線)して、それぞれの領域における活動の変化を監視するためのものである。地震は、M3.0以上で深さ90km以浅のものである。このうち、東海地震の想定震源域を含むB領域で、昨年後半からM3.0以上の地震発生が、9月4日のM3.3(御前崎南方沖)を除いてみられない。また、この領域の北(陸)側に限ってみれば、6月1日のM4.1(島田付近、最大震度1：静岡・御前崎・網代)以来発生なしというパターンになる。これは、統計的に見て、有意になりかけているとみられることから、今後の活動の推移には十分注意していく必要がある。

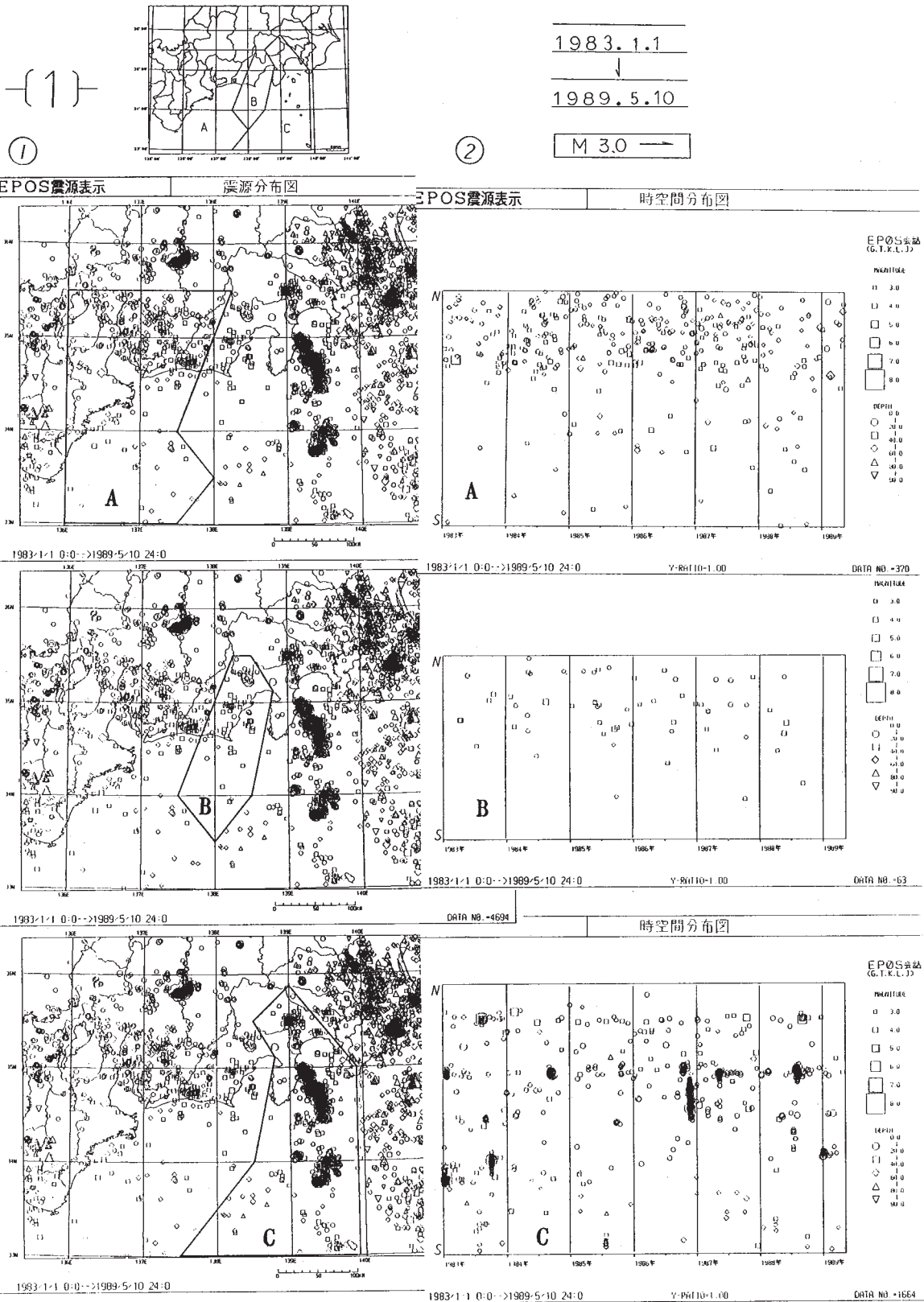
B領域の西側に隣接するA領域でも、いささか目をひく変化が認められる。昨年4月ころから、この領域の北側部分でサイスミシティの低下(空白)があったが、これは一時的なもので、9月ころから徐々に通常の状態にもどった。しかし、これとは反対に南側部分のサイスミシティが9月ころから低下(空白)し、現在に至っている。今後の推移に留意すべきであろう。

C領域については、特に目をひく変化はないが、昨年12月28日からの神津島近海の活動を除けば、本年に入ってからサイスミシティは低いといえる。

第2図には、第1図の補足として、B領域における1988年1月1日～1989年5月10日までの地震活動の分布を示した。図の構成は第1図と同じであるが、地震は震源決定されたものすべて(深さ90km以浅)である。この図は、M3.0未満の地震の発生状況を知るためのものであるが、昨年の6月からの状況に特に目をひく変化はない。強いていえば、昨年11月からの「地震数の若干の減少」である。しかし、これは本年5月に入って増加傾向に転じた気配が認められる。今後の推移に留意したい。

注1：1989年1月1日からの資料は暫定。

注2：第1図脚注に示した他機関データ使用は、1988年1月1日分から。



(気象庁・東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 東海地方のA・B・C領域における地震活動 (1983年1月1日～1989年5月10日 =M3.0以上)

①：震央分布，②：時空間分布，③：M - T図，④：地震回数積算図

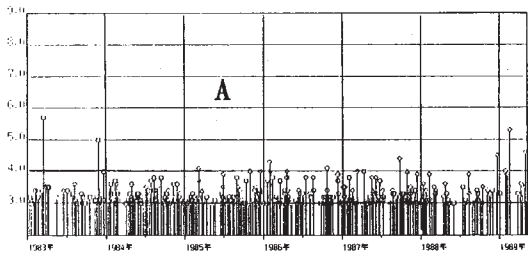
Fig. 1 Seismic activity in regions A, B and C, Tokai District (Jan. 1, 1983 - May 10, 1989: M ≥ 3.0).

①：Epicentral distribution, ②：Space-time plot, ③：M-T diagram,  
④：Cumulative number of earthquakes.

③

EPOS震源表示

M-T図



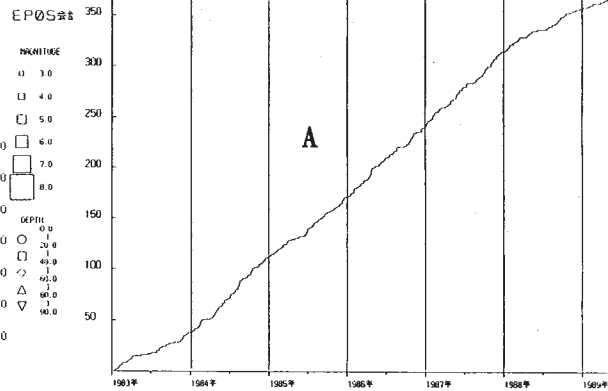
1983-1-1 0:0->1989-5-10 24:0

DATA NO. =370

④

EPOS震源表示

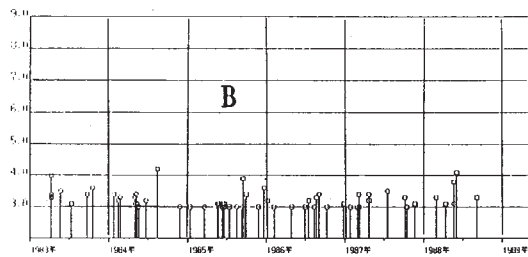
回数積算図



1983-1-1 0:0->1989-5-10 24:0

EPOS震源表示

M-T図

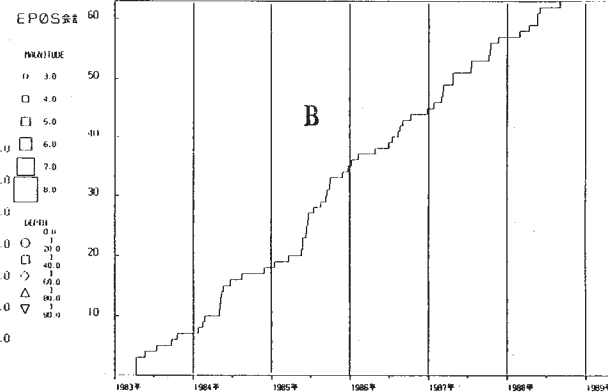


1983-1-1 0:0->1989-5-10 24:0

DATA NO. =63

EPOS震源表示

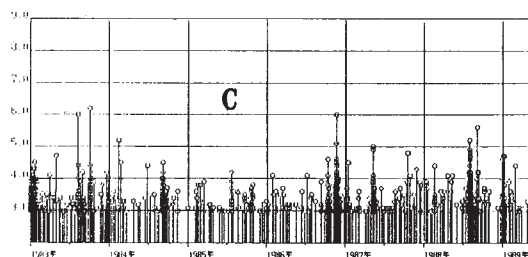
回数積算図



1983-1-1 0:0->1989-5-10 24:0

EPOS震源表示

M-T図

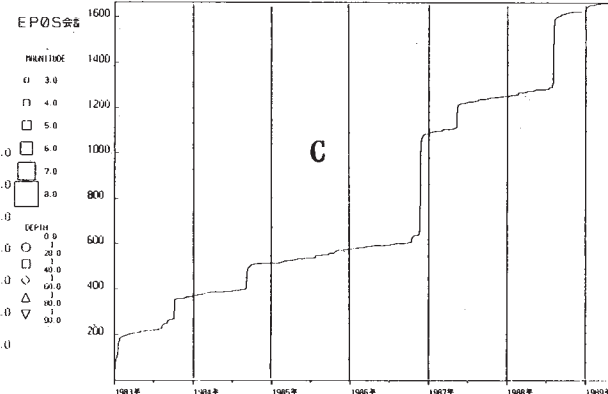


1983-1-1 0:0->1989-5-10 24:0

DATA NO. =1664

EPOS震源表示

回数積算図

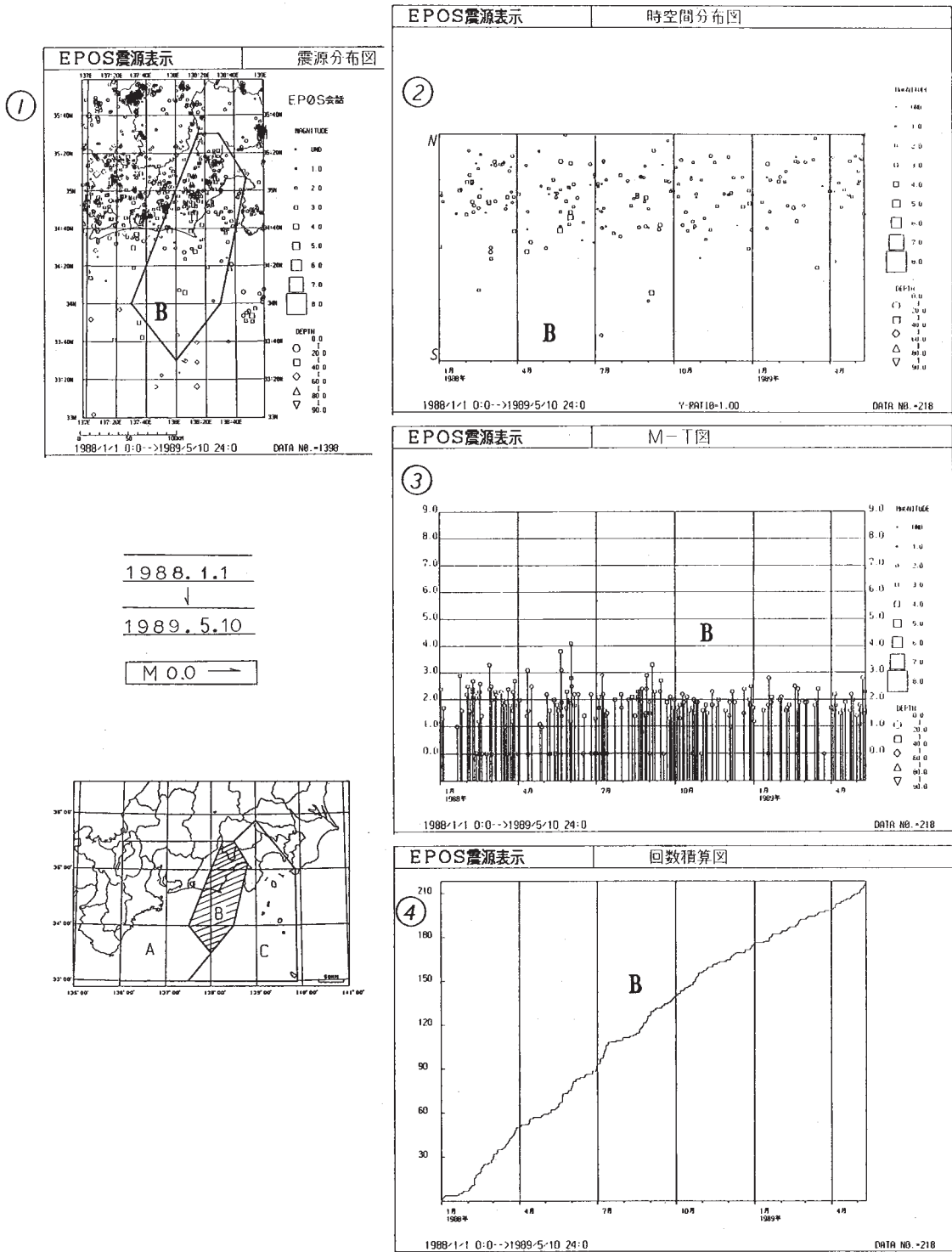


1983-1-1 0:0->1989-5-10 24:0

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

{2}



第2図 東海地方のB領域における地震活動（1988年1月1日～1989年5月10日）  
 ①：震央分布，②：時空間分布，③：M - T図，④：地震回数積算図

Fig. 2 Seismic activity in region B, Tokai District (Jan. 1, 1988 - May 10, 1989).  
 ① : Epicentral distribution, ② : Space-time plot, ③ : M-T diagram,  
 ④ : Cumulative number of earthquakes.